

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	江北紀水苑
(ユニット名)	江北紀水苑
所在地 (県・市町村名)	佐賀県杵島郡江北町大字上小田1261番地
記入者名 (管理者)	本村 友巳
記入日	平成 20年 8月 29日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『たのしく あかるく こちよく』の理念のをモットーに、家庭的な雰囲気と地域交流の下、利用者一人一人が自分らしく暮らしていけるように支援している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常時、目に付く所に理念を掲げ、スタッフ会議、ミーティングの時は、理念に基づき意見交換を行っている。また、その理念『たのしく、あかるく、こちよく』が利用者にとって満足いくものかどうかを考えながら、日々取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の面会時、運営推進会議等で伝える場を設け、また地域行事への参加を行い、地域住民との交流をはかっている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶を交わしたり、また近所の方より、栽培された野菜や花を頂くなどの好意的な近所づきあいをさせていただいている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区長さんや民生委員の方より文化祭や地域のお祭り、老人会へのお誘いを頂き、出来るだけ積極的に参加させていただくよう努めている。また、老人会の運動会では、飛び入りながら競技参加をさせてもらうなど、好意的に受け入れていただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の中で、民生委員の方に地域の高齢者の方の介護状況を聞き、介護方法などで力になれることがないかと呼びかけをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義を理解し、評価の過程を通じて、質の確保・向上に繋がられるよう努めている。また日々のケアを振り返り、改善する努力をしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、会議メンバーより率直な意見を頂き、検討している。また苑からも情報を提供し、広い視野での意見を頂き、現在提供しているケアで満足してしまわないよう、サービスの質の向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型サービスに関わる問題などが発生した場合は、その都度、地域包括支援センターに相談している。町の高齢者向けのイベントの情報を頂いたり、現在、当施設で行っている、レクリエーションの活性化についての情報を共有したり、お互いに情報交換し協力してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は毎月開かれているグループ本部の主催の勉強会への参加を通して学習している。実際に問題に直面したときに、対応できる様に学んでいる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するマニュアルを準備しており『身体拘束ゼロ宣言』を行っている。研修会や勉強会に参加し、理解を深めるよう努力をしている。また、外出や外泊の後の入浴時などに確認をしている。		<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束についてのマニュアルを整備している。 ・『身体拘束ゼロ宣言』の提示

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学に来られた際や契約時に十分な説明をし、受け入れられる条件についても説明し、理解・納得していただいた上で契約を結ぶようになっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	業務が落ち着いているときなどに、出来るだけ時間を作り、利用者が気軽に意見・不満・苦情を話せるような雰囲気作りを心がけている。手の空いた時には世間話をしながら、リラックスした雰囲気で意向を汲み取るようになっている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、『苑便り』を発行し、苑での暮らしぶりや、行事・主な出来事等を報告している。また個人の体重の増減、食事の摂取状況、排便状況、睡眠状況など、体調の変化については情報提供書を発行し、共に家族へ郵送している。体調を崩された時などは随時、電話にて報告をしている。又、面会時も必ず状況報告を行うようになっている。	・苑だより、情報提供書の発行
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。面会時、行事の際には利用者の状況報告をする。意見が出た場合はミーティングで話し合い、改善することに努めている。	・意見箱の設置
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りの時に職員間で意見や要望などの提案をし、そこで出た内容を管理者がまとめ、その都度上司へ伝え、改善実施に努めている。また、全体ミーティングの時に、意見交換をする場を設けている。その他、問題が発生した場合は、話し合う場を設け、改善、解決に取り組んでいる。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況は毎月書面で報告し、また体調の変化があった場合はその都度、家族へ連絡し、十分相談した上で対応について決定している。また、イベントや受診の時などには必要な職員数を確保するなどして調整を図り柔軟に対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しいスタッフが利用者様に快く受け入れてもらえるよう、他のスタッフと組み合わせ、利用者様へのダメージを最小限に抑えるよう配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間教育計画を立て、取り組んでいる。FC勉強会や交流研修会に参加するなど、段階に応じた教育を行っている。また、法人内で隔月に勉強会を開催し、より良いケアを行うための教育を行っている。</p>	<p>・施設内勉強会 ・FC勉強会 ・FC交流研修</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホームと合同での勉強会に参加し、また定期的に交流研修会を行い、お互いの情報交換をし、サービスの質の向上に努めている。</p>	<p>・FC交流研修 ・FC勉強会</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スタッフに声をかけ、必要時には面談を行っている。また定期的に親睦会(食事会)を行うよう、できるだけストレスを軽減するように努めている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の實力、職務に対する姿勢を把握し、技術、役割を理解した上で、働きやすい環境を整備するよう努めている。またやりがいを持って働けるような環境づくりを心がけている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居契約前に本人と面会の時間を設け、よく話を聞き、利用者様の不安やどういったケアを求めているのかを聴き、信頼関係構築に努力している。また入居初期の段階は状態や性格、性質を知るためにも、声かけを頻繁にし話を聴き、受け止めるよう努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>契約前に家族の思いを十分に受け止め、家族がどういうケアを望んでいるのかを聴き、納得のいくまで話し合うようにしている。家族の不安や要求に応える努力をしている。家族の負担を軽減するためにも、オムツ補充や病院受診についても出来る限り協力している。また入居間もない時は、苑での様子などを密に報告するようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけ利用者にとって良いと思われる生活を考えた上で、必要に応じて他のサービスの説明を行う。本人や家族が必要としていること、望んでいることをケアプランに取り入れ、サービスを提供できるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	少しずつ慣れていただくように、利用者、家族共に見学に来て頂く事をすすめ、雰囲気を知っても納得してもらうようにしている。入所後もここでの生活に慣れるまでは家族の面会を頻繁にお願いするなど協力を頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の味見や野菜の収穫時期などをみてもらい、共に収穫する楽しみを感じている。作品の完成時には評価し合いながら完成を喜んでいる。また日々の生活の中で、冗談を言い合い、職員も利用者と共に楽しんでいる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には今の状況を伝え、また以前の生活ぶりや昔の話等を教えてもらうなどのコミュニケーションの機会を多く持つことで、共に支えあう関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との外出を楽しみにされている入居者様には、ご家族の出来る範囲で外出や外泊をして頂き、これまでの家族との関係が途切れないように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様と共に地元の運動会へ見学に行き昔の知人に会う機会を作ったり、家族との外出の時には、本人にとって馴染みの場所や人との交流をお願いしている。親類や知人にもいつでも気軽に面会に来ていただけるように声かけをして、これからもよい関係が継続できるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を配慮した上で、食事時やソファなどの座席位置を考え、みんな仲良く、一人ひとりが孤立してしまわないように努めている。身体の不自由な方への助け合いも見られる。またトラブルが起りそうな場合には、職員が間に入り、気分転換を図るようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や退去後も御見舞に行くなどしている。またご家族に伺うなど、つながりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの職業や趣味、行動、性格などから本人の意向を汲みとるよう努力し、家族・職員間で話し合い把握に努めている。これまでの生活や趣味を可能な限り継続していただくように支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に今までの生活環境、暮らしぶりなどを聞き、入居者様との会話からも把握するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全職員が申し送りを聞き、一人ひとりの生活のペースと心身状態を把握した上で、その日の状態に合わせて支援するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人にとって心地よい生活を送る為に、本人、家族から要望を聴き、ケアのあり方について職員間で話し合い、計画に反映している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリング、アセスメントをとり、本人、家族の意見・要望をケアプランに取り入れている。現在のケアプランで対応が困難な状況の変化が起こった場合は、家族に相談し職員間で話し合い、新たなケアプランを作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の精神状態、食事の量、排泄状況、歩行状況などを記入し、毎日の申し送り時に職員間で情報の共有化を図っている。支援方法や介護計画の見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診同行、行政への手続き代行など、要望に応じて柔軟に対応している。またオムツ、衣服の調達についても家族より依頼にて、出来るだけ安価なものを購入するなど協力をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に消防訓練を行う際には、消防署へ協力を得て通報訓練等を行っている。また音楽ボランティアの方たちに訪問演奏していただくなど、している。	○	今後は中学生の職場体験の受け入れにも積極的に取り組みたいと思う。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状態が変化した時など、医療機関との連携を図り、必要に応じては入院の支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には必ず、地域包括支援センターの方に出席していただき、現在のサービスの実施状況の報告をし、また問題解決への助言を頂くなどしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望される病院がある場合は、継続して受診して頂いている。家族が病院受診に同行される場合は、電話もしくは書面にて医師に状態を伝えるなどの情報提供をして支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>現在までにまだ対象者がいないが、利用者の介護度も年々進み、対象者が出てくることが予想されるので、対応について職員全員で勉強し、情報を共有するよう努めたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	○	町の図書館で利用者の興味のある本を借りたい。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中はオムツ使用者でも、必ず時間をみてトイレ誘導し、一人ひとりの排泄パターンに合わせて支援している。また気持ちよく排泄できるように、水分摂取量のチェックを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人のタイミングに合わせて入浴していただくように努力している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	起床・消灯時間は決めておらず、昼寝するもしないも本人の自由に行っていただいている。入所前の生活パターンを出来る限り継続し、心地良く暮らせるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の配膳・後片付けは役割分担し、掃除、洗濯物たたみなどもその人の力に合わせた支援を行っている。与えられた作業について皆さん意欲的に取り組まれているのを感じる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者は、以前に認知症特有の症状である者取られ妄想などにより、以前にトラブルの原因になったこともあり、現金の所持を控えていただいている。しかしながら、現金を持つことで安心される方もいらっしゃるので、小額の現金を家族が持たせたいという希望があれば、受け入れている。	○	レクリエーションで買い物など、出来るだけお金を扱う機会を作り、支援していきたいと思っている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物に出かけたり、天気・気候の良い日には町内の公園までドライブしたり、日向ぼっこをしたりしている。また食材の買い物に入居者様と一緒に出かけ、食材と一緒に選んだりしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期的に気候の良い季節に、お弁当を持ってお花見や、神社へ参拝など全員で出かけている。また個別に家族と気軽に外出できるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ年賀状を書くようにしている。本人から自宅へ電話の要求があった場合は、時間帯を考慮してかけていただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特に定めていないので、訪問者の都合の良い時間に来ていただいている。出来るだけリラックスしていただけるように、居室へお茶を提供したりと居心地が良いと思える雰囲気作りを心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束ゼロ宣言』をしており、全職員が理解をした上でケアに取り組んでいる。		<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束についてのマニュアルを整備している。 ・『身体拘束ゼロ宣言』の提示
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量も多く、精神科の薬を服用中の方もいらっしゃるの で、状況に応じて一時的に鍵をかけることもあるが、玄関には人感センサーによるブザーをつけているので、普段は原則として日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら、一人ひとりの行動パターンを理解し、所在を確認し人数の把握に努め、常に見守りをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫などをされるときは必ず付き添い、見守りをする。包丁、ハサミ、縫い針など本人の希望で必要なときだけ提供し、使用後は目の届かない場所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態に応じた事故防止に努めている。転倒の危険性がある人は見守り、服薬介助は必ず名前と日付を確認しながら行う。状態の変化があった場合は、その都度、申し送り等で職員全員で情報を共有している。事故防止マニュアルを整備している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法の講習を受けている。勉強会に参加し、緊急時に対応できる様に、日々学習、訓練をしている。	○	実際の緊急時にはなかなかうまく対応できない為、これからも勉強会・講習会などで学習を重ね、実践できる様に努める。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議の時に、入居者の状態を理解していただく為に個人情報保護に配慮した上で状態を報告し、災害時に地域の方の協力が頂けるように働きかけをしている。		・緊急連絡体制の整備
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時や家族会、運営推進会議など家族との接触の機会があるごとに精神状態、身体状態、生活状態、バイタル等より今後起こりうる突発的な急変について、重度化や看取りを含め話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの体調に異変が発見されたときは、当日のリーダーもしくは看護師へ報告し、その後の対応について、申し送り等で情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	臨時薬の処方の時も一目でわかるように、熱表に記録し、入居者内服一覧表も整備している。個人記録、申し送りノートに記録し、全職員が目を通すようにしている。日頃の行動、排便状況、血圧等を観察、記録し、担当医師に薬の調整をして頂いている。薬の変更があった場合は、申し送り時に口頭と文章によりきちんと伝え把握するようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘による病気の悪化、便秘の原因などについて、社内の勉強会等で学び、水分摂取の強化に努め、繊維質の多い食物を摂取するなど心がけている。体操や歩行を取り入れたり出来るだけ体を動かすよう支援している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じて支援している。口腔ケアについてのマニュアルを整備している。		・口腔ケアについてのマニュアルの整備

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に本部の栄養士にチェックをして頂いている。野菜を中心とした栄養のバランスが取れた食事を心がけている。また食事・おやつの時、入浴後など定期的に水分を摂るように促し、一日を通して十分な水分摂取が出来ているか飲水量のチェックを行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを整備しており、周知している。毎年インフルエンザの予防接種を入居者様、職員すべてが受け、外出後の手洗いとうがいを励行している。		・感染症に関するマニュアルの整備
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、お盆、箸などは天気の良い日には日光消毒を行い、3日毎に夜勤帯でまな板、包丁、布巾を消毒し、チェック表に記録し、衛生管理に努めている。新鮮な食材は新鮮なうちに使い、調理後も常温で長時間放置することのないように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇には季節に応じた花、畑には野菜を栽培し、建物の周りには木を植えており、緑を多く取り入れ、出来るだけ入りやすい雰囲気づくりに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	山の麓に施設が位置し、周りには田畑が広がり、窓からの景色で十分季節を感じられるほか、季節を感じる物や絵、また入居者さんが作られた作品を飾るなどしている。夏の間など日当たりの良すぎる部屋にはすだれやよしづをかけるなどして日光の調整をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き、気の合う利用者同士、思い思いに過ごしてもらえるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居契約時に使いなれたものや好みの品の持ち込みを奨励しており、写真立てやカレンダーなどを飾られるなどして、居室を思い思いの装飾をして頂き、本人にとってできるだけ居心地のよいスペースになるよう、工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、窓を開けて空気の入替えを行っている。湿度の高い夏場はエアコンで調節し、暖房を使用する冬場は空気が乾燥するので、洗面台に水を張ったり濡れタオルを使用するなどの配慮をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでトイレ、浴室など至る箇所に手すりを設置し、玄関はスロープになっている。介助による歩行や見守り歩行を行い、自立歩行に向けて支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人の部屋にカレンダーや時計を設置し、混乱を防ぐような環境づくりに努めている。居室の入り口には、表札と本人の写真を貼り、夜間もトイレには電気をつけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にはベンチを置き、日向ぼっこをしながら雑談や歌などを楽しむスペースとして利用している。苑庭にある畑、花壇で野菜や花を栽培しており野菜の収穫を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・十分な水分摂取と摂取量の把握

水分の摂取量が不足すると便秘や脱水、尿路感染、老人性の皮膚掻痒にもつながるので、1日あたり1500ccを目安に摂取していただくようにしている。あまり水分摂取を好まない方でも最低1000ccを目標に摂取して頂いている。とはいっても、なかなか積極的に飲んでいただけないので、お茶や牛乳、スポーツドリンク、コーヒーなど色々なバリエーションで出来る限り水分を摂取していただけるように努めている。

・レクリエーションの充実

利用者の重度化が進み、2/3が車椅子利用者となり、全員での外出が難しくなってきました。苑内でもできるだけ利用者が楽しめるように、レクリエーションの活性化を行うために、月に1度、レクリエーションの指導者に来ていただいている。毎回茶道や生け花、輪投げや色んなアイテムを使ってのゲームやリズム体操などで大変盛り上がり、利用者も非常に楽しまれている様子である。スタッフも技術の修得につなげるよう努力している。